

奥州ニ産ス、濶サ六七分、或ハ一寸許厚シテ昆布ノ如ク味モ似タリ、賤民ノ食ナリ、貯置ケバ白キ粉ヲ生ス、水ニ入ルレバ青黄色、煙火ノ筒ヲ卷クニ用テ甚ツヨシト云、此條ヲアラメト訓ズルハ非ナリ、アラメハ黒菜ナリ、

〔本草和名九〕海藻一名落首、一名薄仁仁音音、石帆楊玄操、水松狀如松、一名海藻、一名海羅已上三名海

藻一名薄出雜、一名青韭名苑、一名海髮狀如亂髮也、麋茸似水、紫菜狀似紫、一名神仙菜、藻菜已上五名

禹出崔、石帆一名石連理名苑、和名之末毛、一名爾岐女、一名於古。

〔倭名類聚抄十七〕海藻 本草云、海藻味苦、鹹寒、無毒、俗用和布字。

〔古名錄二十七〕今案古書ワカメニ海藻ノ字ヲ誤リ用ヒ來レリ、海藻ハホタハラニシテ裙帶菜

ニ非ズ、

〔東雅十三〕藻略○中 倭名抄に略 海藻をニギメといふ、俗用和布字、本朝令に滑海藻をアラメ

といひ、俗用荒布字中略ニギメといひアラといふは古語に荒妙和妙など云ひし如くに、其數文の

藻雜海藻の字を用ひたり、

〔古事記傳十四〕和名抄には爾木米と阿良米とを出して、別に和加米と云をば出さず、又名も和加

米に爾岐米とは、一の如く思はるれども、延喜式に、海藻雜海藻、滑海藻、又和布海藻、荒布と、三を並

べて擧たる所々あれば別なり、かくて式の和布は海藻と分、和加米なるに、和名抄には、海藻を俗

に和布と書よしあるを以思へば、總ては爾岐米と云を、其中にて細に柔なるを分て、別に和加米

とも云へるにや、○中 海藻は米の總名なるに、此字を又爾岐米に用たるを思へば、種々の米の中

に爾岐米を主とするにや、○下

〔宜禁本草五〕乾菜、海帶、催生下水療婦人風、比海藻更魚柔靱而長、乾之以東器物、

〔庖厨備用倭名本草四〕裙帶菜略○中 元升向曰略○中 余西國海邊ニ住スルコト年久シ、每春和